

2018.11.10 SYM の集い☆スペシャル～総長と若者の集い～(調布サレジオ神学院)

☆ 総長と若者の Q&A タイム

Q 日本に来て、何かやりたいことはありますか？

A 質問ありがとうございます。ここに来たのは、皆さんを知るためです。きのう宮崎で会った若者もきょうここに来てくれています。きのうの写真は全世界に回りました。

私がここに来たのは、皆さんに出会い、同伴するためです。サレジオ会員、サレジアン・シスターズ、イエスのカリタス修道女会のシスターたちに感謝するため、日本のサレジオ会の使命についてもっと知るために来ました。

私と私たちにとってはすべてが新しいことです。この出会いを通して皆さんの近くにいることを感じられるのはとてもうれしいことです。日本を離れた後、いろいろな思い出と一緒に素敵な感情を持って帰れそうです。日本はもはや自分にとって遠い国ではありません。ありがとうございます。

Q 総長様とサレジオ会との出会いについて教えていただけませんか？

A どこに行っても同じ質問をされます(笑)。なぜサレジオ会員になったのか。私にとっても1つの神秘的なものです。なぜ神秘的なのか。それは、神様が何かをしてくださったと思うからです。

ここにいて素晴らしいと感じるのは、ここに居る何人もの人が召命の道を歩んでいることです。もちろんSYMの若者に会うこともすごくうれしいことです。すべての人に場所があります。ある人は修道会に入るという召命がある。ある人は職業への道がある。私は夕食のときに、将来の女医と食事を共にしました。カトリックの若者たち、キリスト者でない若者たちが一緒にここに居られるのは素晴らしいことです。「あの人は私たちではない」ということはないですね。わたしたちは皆、神様の子どもです。皆さんのビジョンに感謝します。素晴らしいことです。これを決して失わないようにしてください。

それでは、私の歴史を短くお話ししましょう。私の秘書のホラシオ神父さんは150回ぐらい聞いているのでこの話に飽き飽きしていますが(笑)、興味深い何かがあります。私はスペインの海の近くの小さな村で生まれました。皆さん、魚が好きでしょ？私も魚が大好きです。私の父は50年間漁師をしています。私が10歳の時、漁に出るため父が網の準備をしていました。すると、ある他の街のおばあちゃんが来て、海で休んでいたのです。父が網を広げると、おばあちゃんは海に散歩に行けたらいいと言いました。父は「いつか行きましょう」と行ったのです。数日後、一緒に散歩に行きました。こうして私の両親とおばあちゃんの友情が生まれたのです。

2年後、そのおばあちゃんが両親に言いました。「あなたたちの息子は、将来何をしようか？」「彼は小学校を出れば私と一緒に漁に出るでしょう」「ああ、残念ですね。息

子さんはもっと勉強できたらよいと思いますよ。私は若者たちと働いている人を知っています。サレジオ会員というのです」。私たちは、サレジオ会員について何も知りませんでした。母が私に聞きました。「お前、どうしたい？」私は「はい」とは言いませんでした。しかし、数か月後、サレジオ会の学校に行くことになり、5年間そこで勉強しました。しかし、サレジオ会員に飽き飽きしてしまい、これは本当ですよ。その学校を出てしまいました。私は医学の勉強をしに、大学に行きたかったのです。大学に入る準備を全部しました。でも、心の中に人生で明らかにしたい何かがあると感じていました。私は両親に言いました。「自分がサレジオ会員になるべきか知りたい」と。私たちのためにサレジオ会員がしてくれたことが好きでした。しかし、サレジオ会員に飽き飽きしていたことも事実です。ただ、心の中に何かが残っていました。両親は貧しく、父は夏に漁に出かけるために私を必要としていました。しかし、両親は「もしお前のためにそれがいいなら、行ってきなさい」と言ってくれました。それで、私はサレジオ会での自分の歩みを始めたのです。振り返ってみる時、自分にとって謎があります。まず、サレジオ会員を知らなかったのに、おばあちゃんが現れて彼らのことを教えてくれた。そして両親は私を必要としていました。もし父が「一緒に漁に行つてほしい」と言っていたなら、私の識別はそこで終わっていました。両親は私に対してとても寛大だったのです。こういうわけで自分の歩みに謎を感じます。振り返ると、神様が私に同伴してくれていたと感じます。これが私のストーリーです。ありがとう。

Q 日本のサレジアン・ファミリーに会って、どのようなことを感じていますか？

A まだ家族のすべてを見たわけではありません。明日はサレジアン・ファミリーの日となっています。私はサレジアニ・コオペラトリーの人たちと会いました。きょうも台所で活躍されていましたね。とても気に入りました。イエスのカリタス会、サレジアン・シスターズ 2 つの会のシスターたちが一緒にいることも素晴らしいことです。そして、もちろんサレジオ会員と一緒にいることも素晴らしい。

SYMの若者たちに会えることもすごくうれしいです。皆さんの多くは学生でしょう。すでに働いている人もいます。私は日本のサレジオ家族のことを考えると、とてもうれしいです。私は皆さんの多くが将来修道者になったり、あるいは働いたりして、サレジオ家族のお父さん・お母さんになってくれることを願っています。ありがとう。

Q 言語的にみると、ローマと最も遠いのが東アジアの国々だと思います。ローマから発表される大切なメッセージをどうしても後から聞くことが多くなってしまいます。でも、きょうは総長様がここにいらっしゃいます。先日若者をテーマとしたシノドス（世界代表司教会議）が行われ、総長様も参加されましたが、これから私たちが歩むべき旅路について、一言いただけますか。

A まず、日本は遠くありませんよ。私はローマやヨーロッパが中心とは思っていません。

日本は日本、アルゼンチンはアルゼンチン、ナイジェリアはナイジェリアです。私としては文化が違うということは感じます。アメリカはスペインに近いと感じます。日本の文化は独特ですね。しかし、決して遠くはない。「すべては遠く、すべては近い」。分かります？
この意味（笑）

バチカンで行われた今回のシノドスには 260 人の司教たちが参加し、25 名の若者も参加しました。その若者たちが、教会が若者に近いものとなるために何が重要かということを考えてきました。いろいろと話し合い、若者の声を聴きました。全世界の 20 万人の若者の意見が集められました。彼らが何を思っているか教えてほしい、教会に若者たちが何を求めているのか知りたいと。

私は、このシノドスで最後に発表された宣言が気に入っています。「若者たちは誰にも自分たちの人生を指揮してほしくない。教会に自分たちの人生をコントロールされることを望んでいない」ということです。若者はルールばかりの教会を求めています。でも、必ず「存在」を求めています。そばにいてほしい、人生の歩みをするときに同伴してほしいと。ですから、私が皆さんとこのように出会っていることは素晴らしいことです。若者が誰かに自分の考えを分かち合いたいということ、誰かに自分のもっている心配や、人生をどう歩んでいるかを聴いてほしいということ、自分たちのために祈ってほしいということは素晴らしいことです。これが一緒に歩いていく、若者と同伴していくということで、今回のシノドスの最も素晴らしかった点です。ありがとう。

Q 世界的に見て、SYM はどういう運動ですか？

A サレジオ家族が持っている素晴らしいものが、この SYM です。世界のすべての若者たちが SYM にいることで家にいるように感じられる。サレジオ家族の様々なグループでそう感じられること、これは素晴らしいことです。教会、学校、他のグループの若者たち。私たちには共通の何かがあるということですよ。それは、サレジオのスタイルが好きだ、ということです。若者らしいやり方でサレジオのスタイルを進めていく。サレジオの霊性も分かち合っています。喜び、友情の素晴らしさ、他の人たちのすべてを受け入れる精神、こうしたことすべてが SYM の運動です。これが、世界のサレジオのすべてで起こっていることです。

現在 140 の国にサレジオがあります。私がどこの国に行っても、文化は違うけれども、皆さんのような若者がいて、同じように感じることができます。これは大きな贈り物で素晴らしいことです。これが続くように望んでいます。まだ幼いけれども後から私たちについてくる人たちには、皆さんが今体験していることを同じように体験する権利があります。これは決して当たり前のことではありません。ぜひ将来の若者たちのことを考えましょう。ありがとう。

☆ フェルナンデス総長 講話

今から私の話ですよ、秘書のホラシオ神父さん（笑）とても短くて単純な話をしましょう。今この時に、形式的なことをしたくないからです。今日のように皆さんの自発性に期待しています。レクリエーションの時間、自己紹介などをしてきました。そして今この時、後で祈りの時間もありますが、個人的にお互いに挨拶することもあるでしょう。ホラシオ神父さんやクレメンテ神父さんにサインをねだることもあるでしょう。思い出の写真を撮ることもあるでしょう。私たちは皆さんのためにここにいるのです。皆さんのとても近くにいたいから。皆さんには形式的なならないように願います。もっと近くに来てください。

質問の答えでいろいろなことを言いましたが、私が自分の生涯の話をして分かることは、人生にとって素晴らしいことがあるということです。皆さんそれぞれの人生に素晴らしいことが起こるのです。どんな過程であっても同じです。あなたの職業や勉強や宗教が何であろうと、カップルの体験を始めたり、あるいは召命の識別をしたりすることもあるでしょう…すべてはよいことです。

ドン・ボスコが若者に言っていたある素晴らしいことばを紹介しましょう。「君たちが若者であるというだけで、私は皆さんを熱愛する」。私にとって皆さんの人生は、とても貴重なものです。ドン・ボスコの別のことばに「私は君たちのことを信じている」というものもあります。私は皆さんの可能性を信じています。これはドン・ボスコが言っていたことです。

私の言いたいことは、皆さんそれぞれに素晴らしい価値・意味があるということです。人生の中で成長していくようにお願いします。寝る時の夢ではなく、将来の夢をもつようにお願いします。どんな若者にも必ず理想があるはずだからです。トヨタのために働くといった夢ではないですよ。夢というのは、何が私を幸せにしてくれるのか、ということです。自分の人生でどうやったら満たされた気持ちになれるのかということ。

私は夕食の時にマナと一緒に食べました。彼女は仕事について話してくれました。マナは自分の職業よりももっと大きなものです。彼女の夢は自分の仕事よりもっと大きなものであるはずです。これが大事なことなのです。

マリナは医学を勉強しています。それを聞いてうれしかったです。きっとこれは奉仕するという夢があるのですよね。ただ単にお金を稼ぐために働くというよりもずっと素晴らしいことです。そしてその後に、家族をつくるということも夢見ることができる。学者になるということも夢見ることができる。夢があるということです。

質問をします。まだまだ皆さんには夢をもつ時間があります。皆さんの中で人生に夢があるという人は手を挙げてくれませんか？挙げていない人も後で見つけることができるでしょう。私たちは皆理想をもつということが大切です。これが若者の最も素晴らしいことです。

世界を回っていくとはっきり分かることがあります。それは、若者は誰でもほかの人に奉仕したい、自分の時間を誰かのために捧げたいという気持ちをもっているということです。自分の人格を捧げる、ボランティアになる、信徒や修道会の宣教師になるとか、誰かに奉仕するというプロフェッショナルになるということです。自分の息子のために捧げる母親になるということもあるでしょう。

自分の人生がほかの人に捧げる何かだと分かった時、人は幸せになれます。テレビではそんなことは教えてくれません。政治家からはそんな話は聞けません。スーパーマーケットでも聞けないでしょう。この深い真理は商業的ではないからです。これは本当なんです。

人生で大きな夢をもつということは、人生を誰かのために捧げるものにするということです。自分が人生を捧げたいと思うとき、トヨタでも JAL でするわけでもありません。誰か具体的な人のためにするということです。人生を捧げるということ。分かりますか？これは本当に素晴らしいと思うのです。

もう一つ、皆さんの宗教が何であっても、私たちの多くはカトリックかもしれませんが、他の宗教の人もいるでしょう。でも、神なしに生きることはしないでください。これは幸せのための大きな理由、深い喜び、人生に意味を深く感じるための理由です。

ある人が私に質問をします。人生で何をしたいのだろうか。私の人生は何のために役立つのだろうか。幸せになるために何をすればよいのだろうか。これが本物の質問です。若者の皆さん、ぜひこの質問を自分にしてみてください。

もちろん、皆さんがいろいろなことを考えていることは知っています。ただ、自分自身、自分の価値、能力を信じてください。心の中で自分を貧しいと思うとしたら、それは違います。皆さん全員が豊かなのです。一人ひとり違うけれども、皆心が豊かなのです。

人は感受性によってその違いが分かります。ある人はあまり話さないが他者にすごく奉仕する。ある人は誰かのそばにいて他者を気持ちよくさせる。ある人は音楽の才能がある、ある人はとても声が素晴らしい…多くの価値があるのです。これが重要です。

皆さんにがんばって前に進んでくださいというためには、これで十分でしょう。私は皆さんのことを信じています。私たちはここに皆さんの人生に同伴するためにいます。もし皆さんが望むのであれば。ありがとう！

☆ 聖体礼拝 フェルナンデス総長の説教

(福音朗読箇所： ルカ 24 章 13～35 節 エマオでの弟子たちと復活のイエスとの出会い)

ご聖体の前での 10 分間の沈黙の前に、今読んだ福音について短い話をしましょう。

今日の福音箇所は私が選びました。なぜかというと、先ほど話したシノドスでこの福音がアイコンとして選ばれたからです。この福音は、弟子たちが復活したイエスに出会うという場面です。皆さんもよく知っているかなと思います。3つの大切な瞬間があるんですね。

1つ目。イエスは最初に2人の弟子と一緒に歩き始めて、彼らの言うことを聞くんです。彼らが心に思っていることを話させるのです。これは私たちにとってのいいヒントになっています。他人のことばを深く聴くというこの歩みを、私たちもしなければなりません。

もう1つ強調すべき点があります。私が自分の召命の話をしました。全員自らに質問できると思います。今日までの道のりというのは、私だけでなく神様が一緒に歩いてくれたということです。私が気づかないように、彼と一緒にいてくれたのです。

彼らは家に着きます。弟子の2人はイエスに「一緒にお泊まりください。もう日も傾いていますから」と言います。イエスは最後の晩餐と同じように、パンとぶどう酒を一緒にいただきます。福音では、この瞬間に2人は彼がイエスだと分かったと書いてありますね。彼らは深いレベルでイエスだと分かったということです。彼らは深い体験をした。心の中で深いイエスとの出会いがあったということが分かります。

親愛なる若者の皆さん、教皇ベネディクト 16 世がこのように言いました。「キリスト教は哲学ではありません。原理でもありません。知恵を学ぶということでもありません。キリスト教はイエス、神との個人的な出会いの体験です」

一人ひとり問いかけるといいでしょう。自分の人生においてイエスと出会ったかと。私は自分の人生において、何回かイエスが一緒にいてくれたと感じることができました。本当

に私は彼と一緒にいたことができます。というよりも神学的には、彼こそが私と一緒にいてくれた、もしくは、イエスが私の人生の中にいてくれたということです。

たとえ皆さんがキリスト教徒でなくても、自分の人生の中で神を発見できる、人生において神のための場所があるのだということ。こうしたすべてのことをイエスがきょう私たちに言ってくれています。イエス様が私たちと共にいたいということです。彼が、友である弟子たちにしたことと同じことを私たちにもしたいということです。

最後に 3 つ目のポイントです。彼らは家にいて寝るために幸せになったわけではありません。彼らは自分たちの体験したことをすぐにほかの人たちに伝えたいという気持ちになったのです。イエスが自分たちの人生にいたということ。その感動、確かさをほかの人たちに

伝えたいと思った。自分の神との合一を分かち合い、伝えていきたい。自分の奉仕、人格をほかの人たちに捧げたい。自分の人生を愛しながら捧げていきたいと思ったのです。

皆さんにこれからの沈黙の中で味わうためのヒントを差し上げました。イエス様が皆さんの人生を抱きしめてくれるということを思い出しましょう。あなたの心を抱きしめてくれるということを思い出しましょう。